

お客様各位

株式会社 セゾン情報システムズ
カスタマーサクセスセンター
HULFT テクニカルサポートセンター

DataSpider Servista Salesforce Metadata アダプタ Salesforce API の
従来バージョン廃止と仕様変更に伴う設定変更のお願い

平素より、テクニカルサポートサービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。

Salesforce 社の Salesforce Platform API の従来バージョンの廃止に伴い、DataSpider Servista の Salesforce Metadata アダプタで、設定変更が必要な場合がございます。

また、Salesforce の仕様変更により、特定の API バージョンで、アダプタの一部のコンポーネントが正常に動作しないことが判明いたしました。

Salesforce Metadata アダプタをご利用のお客様は、大変お手数ですが、以下の内容をご確認いただき、Salesforce 社のアップデートまでに設定変更をお願いいたします。

－記－

1. 対象製品及びバージョン

- DataSpider Servista Advanced Server Package
- DataSpider Servista Basic Server Package
- DataSpider Servista Select

※下記影響範囲のアダプタをご利用のすべてのバージョンが対象です。

2. 影響範囲

- Salesforce Metadata アダプタ

廃止対象の API バージョン

- ・ API23.0、API26.0、API29.0

仕様変更の影響を受ける API バージョン

- ・ API34.0

3. 影響内容

Salesforce 社で 2023 年 6 月に予定されている Salesforce Summer'23 のリリースで、Salesforce Platform API の従来バージョンが一部廃止となります。

これに伴い、使用している API バージョンが廃止された場合は、Salesforce に接続できず処理が異常終了します。

また、API34.0 は、Salesforce の仕様変更により、アダプタの一部のコンポーネントが正常に動作しません。

4. お客様へのお願い事項

Salesforce Metadata アダプタを利用されている場合は、グローバルリソースで該当の API バージョンを利用されているかご確認ください。

また、ご利用の場合には、下記 2 点の実施をお願いいたします。

- ① DataSpider Servista 4.4 にバージョンアップ後、4.4SP1 (※) を適用してください。
- ② 本文書末の別紙に記載している手順をご参照いただき、現在ご利用中のグローバルリソースから API53.0 のグローバルリソースに設定を移行してください。

※ 4.4SP1 は 2023 年 1 月 10 日にリリース予定です。

(ご参考)

▼ Salesforce Platform API バージョン 21.0 ~ 30.0

<https://help.salesforce.com/articleView?siteLang=ja&id=000354473&language=ja&mode=1&type=1>

▼ メタデータ API 開発者ガイド > API のサポート終了 > ノート

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.jp.234.0.api_meta.meta/api_meta/meta_api_eol.htm

※上記 Salesforce 社の公開情報より、該当の API バージョンのテクニカルサポート等のサポート提供終了時期は廃止の 1 年前であり、既に提供が終了しています。

5. 当ご案内に関する問い合わせ先

技術サポートサービス契約先にお問い合わせください。

以上

【改訂履歴】

2022 年 12 月 27 日	初版作成
------------------	------

別紙：DataSpider Servista Salesforce Metadata アダプタにおける Salesforce API の従来バージョンの廃止に伴う設定変更方法

1. 設定変更対象となるグローバルリソース

■アダプタの種類

Salesforce Metadata アダプタ

■グローバルリソースの API バージョンの確認方法

[グローバルリソースの設定]ダイアログの [種類] 列から、API バージョン（下表の赤字箇所）を確認します。

アダプタの種類	種類
Salesforce Metadata アダプタ	Salesforce Metadata (Salesforce 接続設定 Metadata API X.0)

(表示例)

名前	種別	種類	オーナー	プール数 (...)	プール上限
新しいグローバルリソースの作成					
Salesforce接続設定 Metadata API 23.0 接続先①	デフォルト	Salesforce Metadata (Salesforce接続設定 Metadata API 23.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Metadata API 26.0 接続先②	デフォルト	Salesforce Metadata (Salesforce接続設定 Metadata API 26.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Metadata API 29.0 接続先③	デフォルト	Salesforce Metadata (Salesforce接続設定 Metadata API 29.0)	root	0 (0)	不可

■設定変更対象となるグローバルリソース

API バージョンが下記の場合、変更が必要です。

設定変更要否	Salesforce Metadata アダプタ API バージョン
Summer'23(2023年6月)までに 設定変更が必要	23.0
	26.0
	29.0
設定変更を推奨	34.0

2. 変更方法

■概要

廃止対象 API バージョンのグローバルリソースから、最新の API53.0 のグローバルリソースへ移行します。

※API53.0 は、2023年1月10日リリース予定のバージョン 4.4SP1 で対応いたします。

API34.0 は、Salesforce の仕様変更により、アダプタの一部コンポーネントが正常に動作しないため、API53.0 への設定変更を推奨しております。

API バージョンによりコンポーネントのプロパティ、入力スキーマ、出力スキーマ、コンポーネント変数等が異なる箇所が存在するため、コンポーネントおよびスクリプトの変更を行います。

■事前準備

- 他の画面を開いていない状態（Studio にログインした直後の状態）で実施してください。
- 予期せぬスクリプト実行を防ぐため、Salesforce 連携を含むトリガーは無効化してください。
- 変更前の状態に復元する必要がある場合を考慮し、変更前のバックアップを取得してください。

バックアップファイルの取得手順は以下の通りです。

- ① Studio の [コントロールパネル] から、[DataSpiderServer の設定] を選択します。
- ② DataSpiderServer の設定ダイアログの [サーバ移行] タブを開き、[設定のエクスポート] を押下します。
- ③ [エクスポート項目の選択] は、全ての項目にチェックしてください。
- ④ エクスポート先を指定の上、エクスポートを実行してください。

■変更手順

1. グローバルリソースの設定情報の確認

以下の手順で、変更対象である、廃止対象の API バージョンを利用しているグローバルリソースの設定情報を確認します。

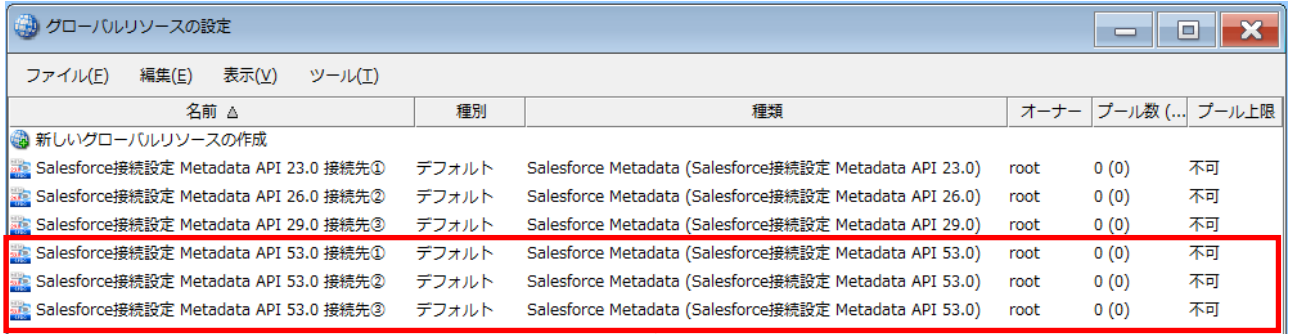
- ① [グローバルリソースの設定] ダイアログの [種類] 列から、API バージョンを確認します。
確認手順は、[1. 設定変更対象となるグローバルリソース] の [■グローバルリソースの API バージョンの確認方法] を参照してください。
存在しない場合、以降の作業は不要です。

- ② 後述する手順で、現在利用中のグローバルリソースの設定と同じ設定のグローバルリソースを再作成します。
そのための準備として、①で変更対象として抽出したグローバルリソースのプロパティを開き、設定情報（接続先のユーザ名、パスワード等の各種設定値）を記録します。

2. API53.0 のグローバルリソースの追加

グローバルリソースを新規作成します。

- APIバージョンは「API53.0」を選択してください。
- 他の設定は、上記[■変更手順 1.グローバルリソース設定手順の確認]で記録したグローバルリソースと同じ設定にします。



名前 ▲	種別	種類	オーナー	プール数 (...)	プール上限
新しいグローバルリソースの作成					
Salesforce接続設定 Metadata API 23.0 接続先①	デフォルト	Salesforce Metadata (Salesforce接続設定 Metadata API 23.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Metadata API 26.0 接続先②	デフォルト	Salesforce Metadata (Salesforce接続設定 Metadata API 26.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Metadata API 29.0 接続先③	デフォルト	Salesforce Metadata (Salesforce接続設定 Metadata API 29.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Metadata API 53.0 接続先①	デフォルト	Salesforce Metadata (Salesforce接続設定 Metadata API 53.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Metadata API 53.0 接続先②	デフォルト	Salesforce Metadata (Salesforce接続設定 Metadata API 53.0)	root	0 (0)	不可
Salesforce接続設定 Metadata API 53.0 接続先③	デフォルト	Salesforce Metadata (Salesforce接続設定 Metadata API 53.0)	root	0 (0)	不可

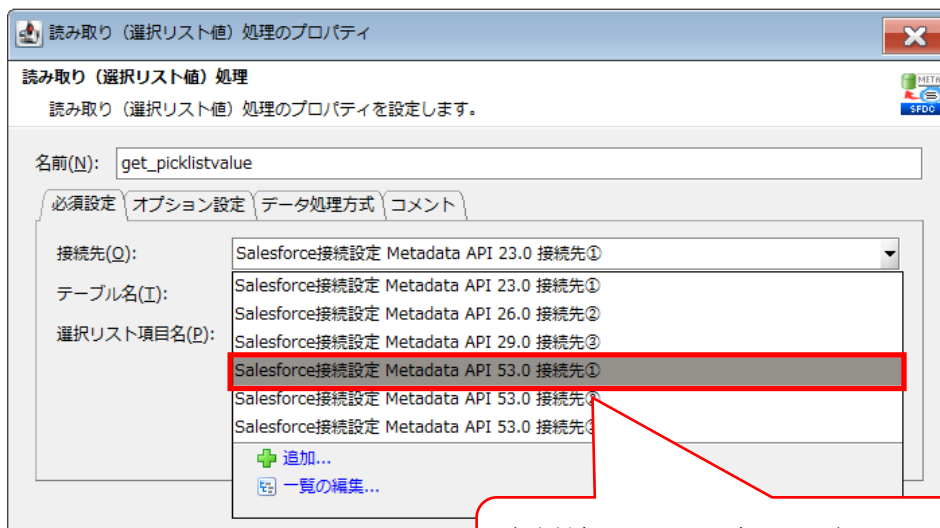
廃止対象のAPIバージョンのグローバルリソースに対応するAPI53.0のグローバルリソースを作成してください。

3. コンポーネントおよびスクリプトの変更

以下の手順でコンポーネントおよびスクリプトの変更をします。

- ① 変更対象のスクリプトから、変更対象となるコンポーネントのプロパティを開きます。
- ② [接続先]を新規作成したAPI53.0のグローバルリソースに変更します。

対象のグローバルリソースは、「■変更手順 2. API53.0 のグローバルリソースの追加」で新規作成したグローバルリソースです。



読み取り (選択リスト値) 処理のプロパティ

読み取り (選択リスト値) 処理
読み取り (選択リスト値) 処理のプロパティを設定します。

名前(N): get_picklistvalue

必須設定 オプション設定 データ処理方式 コメント

接続先(Q): Salesforce接続設定 Metadata API 23.0 接続先①

テーブル名(I): Salesforce接続設定 Metadata API 23.0 接続先①

選択リスト項目名(P): Salesforce接続設定 Metadata API 29.0 接続先③

Salesforce接続設定 Metadata API 53.0 接続先①

Salesforce接続設定 Metadata API 53.0 接続先②

Salesforce接続設定 Metadata API 53.0 接続先③

+ 追加...

一覧の編集...

廃止対象のAPIバージョンのグローバルリソースに対応するAPI53.0のグローバルリソースを選択します。

- ③ コンポーネントのプロパティ、入力スキーマ、出力スキーマ、コンポーネント変数、マッピングリンクを見直します。
- コンポーネントのプロパティ等は、使用する API バージョンにより異なります。
 - 本紙末にある「Salesforce Metadata アダプタ_コンポーネント設定変更箇所一覧」を参照し、対象コンポーネントの「確認有無」列が「要確認」であるか確認してください。
 - 「要確認」である場合は、「API53.0 のグローバルリソースへの変更による追加設定の詳細」列、およびヘルプを参照し、設定の変更とスクリプトを見直してください。

4. プロジェクトのサービス再登録

変更したプロジェクトをサービス登録している場合、サービスを再登録してください。
プロジェクト単位での変更作業が完了してから、実施してください。

3. 変更完了後の対応

- 変更したスクリプトが正常に動作することを確認してください。
- 廃止対象の API バージョンのグローバルリソースは不要となります。
削除またはグローバルリソース名を変更することをご検討ください。

以上

■Salesforce Metadata アダプタ_コンポーネント設定変更箇所一覧

コンポーネント	確認有無	APIバージョンに伴う変更箇所		API53.0のグローバルリソースへの変更による追加設定の詳細
		タブ/コンポーネント 変数/出力スキーマ/ 入力スキーマ/仕様制 限	プロパティ	
読み取り(選択リスト値)	要確認	出力スキーマ	default	このフィールドを持たない選択リスト値の場合、API29.0以前では空文字が出力されるが、API34.0以降は false が出力される。 default が空文字である場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	allowEmail	このフィールドを持たない選択リスト値の場合、API29.0以前では空文字が出力されるが、API34.0以降は false が出力される。 allowEmail が空文字である場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	closed	このフィールドを持たない選択リスト値の場合、API29.0以前では空文字が出力されるが、API34.0以降は false が出力される。 closed が空文字である場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	converted	このフィールドを持たない選択リスト値の場合、API29.0以前では空文字が出力されるが、API34.0以降は false が出力される。 converted が空文字である場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	cssExposed	このフィールドを持たない選択リスト値の場合、API29.0以前では空文字が出力されるが、API34.0以降は false が出力される。 cssExposed が空文字である場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	highPriority	このフィールドを持たない選択リスト値の場合、API29.0以前では空文字が出力されるが、API34.0以降は false が出力される。 highPriority が空文字である場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	probability	このフィールドを持たない選択リスト値の場合、API29.0以前では空文字が出力されるが、API34.0以降は 0 が出力される。 probability が空文字である場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	Reviewed	このフィールドを持たない選択リスト値の場合、API29.0以前では空文字が出力されるが、API34.0以降は false が出力される。 reviewed が空文字である場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	Won	このフィールドを持たない選択リスト値の場合、API29.0以前では空文字が出力されるが、API34.0以降は false が出力される。 won が空文字である場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。

		出力スキーマ	controllingFieldValues	制御項目が設定されていない場合、API26.0 以前では空となるノードが出力されるが、API29.0 以降はノード自体出力しない。 controllingFieldValues の要素のノードに対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	server_url	API29.0 以前かつ、[ログイン先]が[その他 (直接指定)]以外のグローバルリソースを選択している場合、API34.0 のエンドポイント URL が格納されるが、API53.0 のグローバルリソースは API53.0 のエンドポイントが出力される。 server_url が API34.0 のエンドポイントである場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
追加(選択リスト値)	要確認	出力スキーマ	RESULT_ASYNC_done	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	RESULT_ASYNC_id	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	RESULT_ASYNC_message	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	RESULT_ASYNC_state	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		出力スキーマ	RESULT_ASYNC_statusCode	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	inprogress_count	API34.0 以降は値が格納されない。 inprogress_count の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	server_url	API29.0 以前かつ、[ログイン先]が[その他 (直接指定)]以外のグローバルリソースを選択している場合、API34.0 のエンドポイント URL が格納されるが、API53.0 のグローバルリソースは API53.0 のエンドポイントが出力される。 server_url が API34.0 のエンドポイントである場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		仕様制限	-	API 29.0 以前で 8 件以上のデータを更新した場合に発生する API エラー(Async job could not be executed)は、API34.0 以降では発生しないため、本エラーに対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
更新(選択リスト値)1	要確認	必須設定	更新種類	API34.0 以降の場合、選択リスト値の更新対象 (リネームもしくは属性値)をプロパティで指定する必要があるため、本プロパティの設定が必要。
		入力スキーマ	currentName	API34.0 以降では、プロパティの [更新種類] によって入力スキーマの構造が異なり、選択した種類により入力スキーマに存在しない項目のマッピングリンクは切れるため、見直しが必要。
		入力スキーマ	default	
		入力スキーマ	color	
		入力スキーマ	allowEmail	

	入力スキーマ	closed	
	入力スキーマ	converted	
	入力スキーマ	cssExposed	
	入力スキーマ	description	
	入力スキーマ	forecastCategory	
	入力スキーマ	highPriority	
	入力スキーマ	probability	
	入力スキーマ	reverseRole	
	入力スキーマ	reviewed	
	入力スキーマ	won	
	出力スキーマ	default	API34.0 以降では、プロパティの [更新種類] が [属性値] の場合、出力スキーマは存在しない。
	出力スキーマ	color	
	出力スキーマ	allowEmail	[リネーム] の場合は存在しない項目であり、マッピングリンクが切れるため、出力スキーマの結果を取得する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
	出力スキーマ	closed	
	出力スキーマ	converted	
	出力スキーマ	cssExposed	
	出力スキーマ	description	
	出力スキーマ	forecastCategory	
	出力スキーマ	highPriority	
	出力スキーマ	probability	
	出力スキーマ	reverseRole	
	出力スキーマ	reviewed	
	出力スキーマ	won	
	出力スキーマ	RESULT_ASYNC_done	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
	出力スキーマ	RESULT_ASYNC_id	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
	出力スキーマ	RESULT_ASYNC_message	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
	出力スキーマ	RESULT_ASYNC_state	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
	出力スキーマ	RESULT_ASYNC_statusCode	API34.0 以降の出力スキーマには存在しない項目である。本項目をマッピングしている場合マッピングリンクが切れる。 また、本項目に対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
	使用できるコンポーネント変数	inprogress_count	API34.0 以降は値が格納されない。 inprogress_count の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。

		使用できるコンポーネント変数	server_url	API29.0 以前かつ、[ログイン先]が[その他 (直接指定)]以外のグローバルリソースを選択している場合、API34.0 のエンドポイント URL が格納されるが、API53.0 のグローバルリソースは API53.0 のエンドポイントが出力される。 server_url が API34.0 のエンドポイントである場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		仕様制限	-	API 29.0 以前で 8 件以上のデータを更新した場合に発生する API エラー(Async job could not be executed)は、API34.0 以降では発生しないため、本エラーに対する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
更新(選択リスト制御項目値)	要確認	使用できるコンポーネント変数	result_async_done	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_done の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_id	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_id の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_message	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_message の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_state	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_state の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_statusCode	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_statusCode の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	server_url	API29.0 以前かつ、[ログイン先]が[その他 (直接指定)]以外のグローバルリソースを選択している場合、API34.0 のエンドポイント URL が格納されるが、API53.0 のグローバルリソースは API53.0 のエンドポイントが出力される。 server_url が API34.0 のエンドポイントである場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
削除(選択リスト値)	要確認	Metadata API の仕様により、選択リスト値は削除されず無効化され、本コンポーネントの要件を満たせておらず、動作の保証もできていない。 API53.0 では使用不可であるため、「無効化/再有効化(選択リスト値)」に置き換えが必要。		
並び替え(選択リスト値)	要確認	使用できるコンポーネント変数	result_async_done	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_done の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_id	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_id の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_message	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_message の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。

		使用できるコンポーネント変数	result_async_state	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_state の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_statusCode	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_statusCode の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	server_url	API29.0 以前かつ、[ログイン先]が[その他 (直接指定)]以外のグローバルリソースを選択している場合、API34.0 のエンドポイント URL が格納されるが、API53.0 のグローバルリソースは API53.0 のエンドポイントが出力される。 server_url が API34.0 のエンドポイントである場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
更新(選択リスト値 トランスレーション)	確認不要	変更なし (廃止対象 API バージョンでは使用不可コンポーネント)		
読み取り(レコードタイプ選択リスト値)	要確認	使用できるコンポーネント変数	server_url	API29.0 以前かつ、[ログイン先]が[その他 (直接指定)]以外のグローバルリソースを選択している場合、API34.0 のエンドポイント URL が格納されるが、API53.0 のグローバルリソースは API53.0 のエンドポイントが出力される。 server_url が API34.0 のエンドポイントである場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
更新(レコードタイプ選択リスト値)	要確認	使用できるコンポーネント変数	result_async_done	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_done の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_id	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_id の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_message	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_message の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_state	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_state の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	result_async_statusCode	API34.0 以降は値が格納されない。 result_async_statusCode の値を使用する処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。
		使用できるコンポーネント変数	server_url	API29.0 以前かつ、[ログイン先]が[その他 (直接指定)]以外のグローバルリソースを選択している場合、API34.0 のエンドポイント URL が格納されるが、API53.0 のグローバルリソースは API53.0 のエンドポイントが出力される。 server_url が API34.0 のエンドポイントである場合の処理がスクリプトに含まれている場合は見直しが必要。

結果取得(AsyncResult)	要確認	本コンポーネントは廃止対象 API バージョンでのみ使用可能であるため、スクリプト内で本コンポーネントを使用している場合は、使用しないようスクリプトから削除する必要がある。 これに伴い、本コンポーネントの出力スキーマおよびコンポーネント変数の値を使用する処理がスクリプト内に含まれている場合、見直しが必要。
読み取り(カスタム表示ラベル)	確認不要	変更なし (廃止対象 API バージョンでは使用不可コンポーネント)